

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No320

(中教審教育課程企画特別部会)

次期学習指導要領の改訂審議第2回ふり返り(2025年2月17日開催)

まず第一弾の指導要領改訂の構造が見えてきましたか

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問  
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

写真はイメージです

不満です！！！！

座長、タイムマネジメントちゃんとやってくれ！

## 「授業がわかる調査」(授業に対する感じ方)を分析

戸田市では平成16年度から「授業がわかりますか」「授業が楽しいですか」という子供に対するアンケート調査を行っており、授業改善に活用。令和3年度は戸田市における各学年、各教科の傾向を分析した。

### 主な結果①

全体的に「わかる」よりも「楽しい」の方が、学級による違いが大きい。(特に小学校)

表3「わかる」の分散指標(※3)

	教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.26	0.25	0.93	0.71	0.41	
小5	0.35	0.75	0.98	0.87	1.11	
小6	0.29	0.39	0.57	0.51	0.82	
中1	0.35	0.36	0.85	1.56	1.62	0.97
中2	0.63	0.77	1.97	0.95	1.75	1.25
中3	0.49	0.58	0.77	0.78	1.24	1.02

表4「楽しい」の分散指標

	教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.67	0.89	2.33	1.32	0.88	
小5	0.94	1.73	2.67	2.60	2.31	
小6	1.44	2.51	1.52	1.70	2.56	
中1	0.47	1.05	0.98	2.80	1.93	1.04
中2	0.77	1.17	2.41	1.93	3.10	1.32
中3	1.13	1.29	2.09	1.77	2.00	1.81

### 考察

理解することも大事だが子供達が何を楽しいと感じるかに留意しつつ、**教科の本質的な楽しさをいかに伝えられるかに腐心すべき。**

分散指標は分散の値に10を乗じたもの。数字が大きいかほど学級間のばらつきが大きい。

### 主な結果②

「わかる」と「楽しい」の関係性は、高校受検が近づくと弱くなる傾向。(特に国語・社会・数学)

表5「わかる」と「楽しい」の相関係数(※4)

	教科平均	国語	社会	算数/数学	理科	英語
小4	0.63	0.55	0.76	0.59	0.49	
小5	0.73	0.61	0.85	0.74	0.88	
小6	0.71	0.66	0.53	0.56	0.69	
中1	0.60	0.53	0.72	0.72	0.72	0.54
中2	0.76	0.53	0.71	0.14	0.86	0.60
中3	0.58	0.34	0.47	0.28	0.75	0.63

### 考察

わかるけど楽しくないと感じる子供が多くなる。**子供が主体となり、学習内容を探究したりアウトプットしたりすることが重要。**

16

学年や教科によって授業に対する感じ方の傾向が異なるため、その傾向に応じて授業改善を進める必要がある。

相関係数は「わかる」と「楽しい」の関係性の強さ。およその目安として、0.8以上で強い相関、0.7~0.8でやや強い相関、0.5~0.7で弱い相関があるといえる。

論点  
資料 ①

# 学習指導要領の一層の構造化

# 学習指導要領の構造に関する主な課題

## 【前回改訂における改善】

- 全教科等の目標・内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力の柱で整理された。
- 特に、内容は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を中心に一定の構造化が図られた。  
※「学びに向かう力・人間性等」は、目標で整理されたものを内容で共通的に扱う。
- 総則における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の提起により、知識相互を関連付けてより深く理解することなど、学びの質（深さ）を追究する方向性を明確化した。  
※参考資料1

分  
かり  
にく  
い  
と  
の  
指  
摘  
→  
授  
業  
改  
善  
に  
一  
定  
の  
成  
果

## 【なお残る課題】

### ① 資質・能力の深まりのイメージが掴みにくい

「個別の知識を学びながら、新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、各教科等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる」ことを目指す授業を創る上で、個別の知識や技能が関連付けられた状態、各教科等の主要な概念の深い理解との関係（「タテ」の関係）がイメージしにくい。※参考資料2・3

### ② 資質・能力の複数の柱を一体的に育成するイメージが掴みにくい

「『思考力、判断力、表現力等』を発揮することを通して、深い理解を伴う知識が習得され、更に『思考力、判断力、表現力等』が高まる」授業を創る上で、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の相互の関係（「ヨコ」の関係）がイメージしにくい。※参考資料2・3

### ③ 教科書「を」教える授業、「本時主義」からの脱却に至っていない

①、②の課題も相まって、学習指導要領と児童生徒・地域の実態を踏まえ、「どのような力（資質・能力）を身に付けて欲しいか」という認識から出発し、そのための授業のまとめ（単元や題材）を構想し、その上で、教科書や教材をどう使い、一コマ一コマの授業を創るというプロセスが実現しにくいのではないか。  
※参考資料4

【参考資料2】

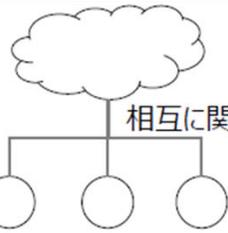
## <「タテ」の関係と「ヨコ」の関係のイメージ>

<生きて働く>

### 知識及び技能

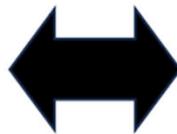
個別の感じ方や考え方等に応じて、  
他の学習や生活の場面でも活用できる

教科の主要な概念の深い理解  
(ex.) 関数を使えば未知の状況を予測できる



相互に関連付けられる

個別の知識や技能  
(ex.) ・比例・反比例の理解  
・一次方程式の解き方  
・二元一次方程式を関数としてみなせることの理解  
・現実の事象を関数でモデル化できることの理解  
・二次関数でモデル化できる事象があることの理解



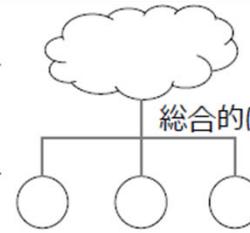
「ヨコ」の関係

<未知の状況にも対応できる>

### 思考力・判断力・表現力等

知識・技能を活用しながら未知の場面でも課題を解決できる

複雑な課題の解決  
(ex.) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を  
予測して、具体的な解決策を選択する



総合的に働かせる

個別の思考力・判断力・表現力等  
(ex.) ・二つの数量の変化・対応関係を見出し、式やグラフを用い  
て考察する  
・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処  
理したりその結果に基づいて判断する

※ (ex.) は例示のイメージ

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要。
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい。  
➡こうした資質・能力の関係性やそれらの一体的育成への理解は、資質・能力を効果的に育成するためにも不可欠。

# 学習指導要領の構造に関する主な課題

事務局  
論点資料

## 【前回改訂における改善】

- 全教科等の目標・内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力の柱で整理された。
- 特に、内容は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を中心に一定の構造化が図られた。  
※「学びに向かう力・人間性等」は、目標で整理されたものを内容で共通的に扱う。
- 総則における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の提起により、知識相互を関連付けてより深く理解することなど、学びの質（深さ）を追究する方向性を明確化した。  
※参考資料1

分  
かり  
にく  
い  
と  
の  
指  
摘  
→  
授  
業  
改  
善  
に  
一  
定  
の  
成  
果

## 【なお残る課題】

### ① 資質・能力の深まりのイメージが掴みにくい

「個別の知識を学びながら、新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、各教科等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる」ことを目指す授業を創る上で、個別の知識や技能が関連付けられた状態、各教科等の主要な概念の深い理解との関係（「タテ」の関係）がイメージしにくい。※参考資料2・3

### ② 資質・能力の複数の柱を一体的に育成するイメージが掴みにくい

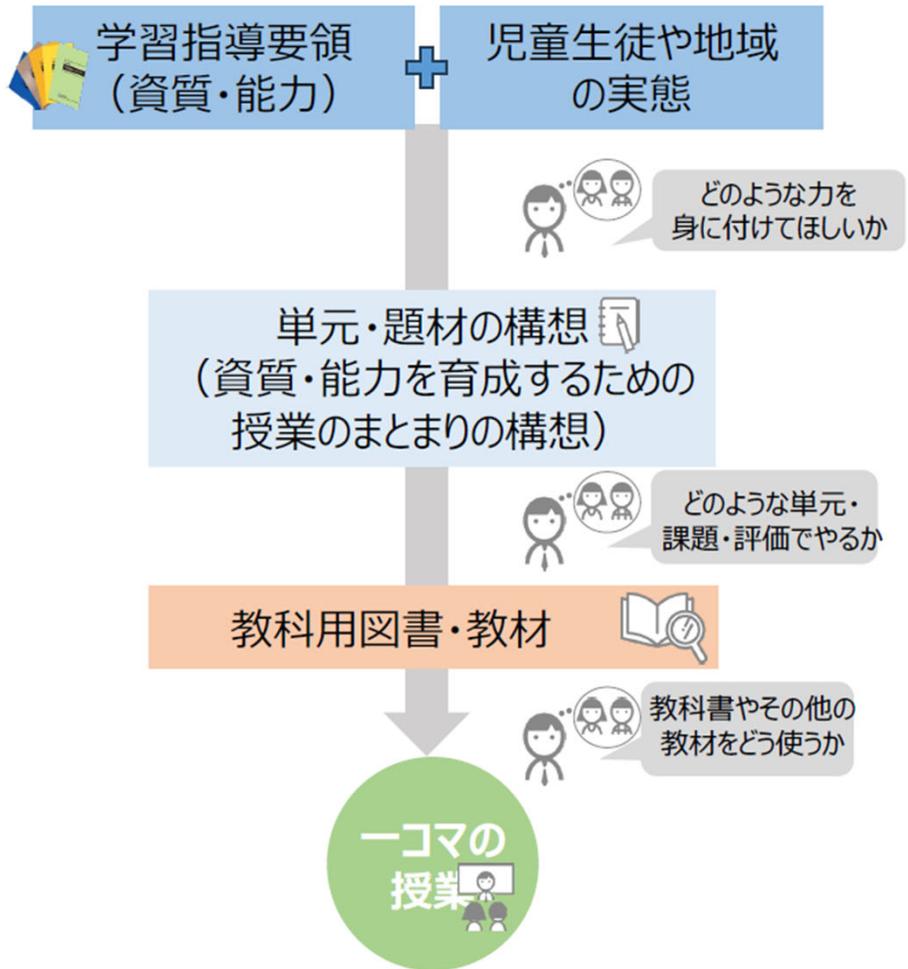
「『思考力、判断力、表現力等』を発揮することを通して、深い理解を伴う知識が習得され、更に『思考力、判断力、表現力等』が高まる」授業を創る上で、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の相互の関係（「ヨコ」の関係）がイメージしにくい。※参考資料2・3

### ③ 教科書「を」教える授業、「本時主義」からの脱却に至っていない

①、②の課題も相まって、学習指導要領と児童生徒・地域の実態を踏まえ、「どのような力（資質・能力）を身に付けて欲しいか」という認識から出発し、そのための授業のまとめ（単元や題材）を構想し、その上で、教科書や教材をどう使い、一コマ一コマの授業を創るというプロセスが実現しにくいのではないか。  
※参考資料4

【参考資料4】

＜課題③に関連した資質・能力から出発する授業づくりのイメージ＞



## 💡 論点と考えられる方向性（案）

### 【3つの論点】

① より深い学びを実現する授業のイメージを持てるよう、前回改訂の構造化を更に発展させ、  
 (i) 「知識及び技能」相互、「思考力、判断力、表現力等」相互の「タテ」の関係、  
 (ii) 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の相互の「ヨコ」の関係、  
 を教師が「掴み取りやすくする」ための改善を行うことが必要ではないか。

② 授業づくりに積極的に活用できるよう、各教科の目標・内容の全体像や、「タテ」「ヨコ」の関係性など、教師にとって構造が視覚的に理解しやすく、分かりやすく、使いやすい記載の在り方について検討する必要があるのではないか。

③ 告示される学習指導要領は単一の形式とならざるを得ないが、実際に授業づくりを担う一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいという観点から、デジタル技術を活用することにより、解説を含めた学習指導要領のユーザビリティ・アクセシビリティをどのように向上しうるか。

### 【考えられる方向性】

① 各教科等の「中核的な概念や方略」を中心に、学習指導要領の目標・内容の一層の構造化を図ることが考えられるのではないか。  
 その際、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に応じた「中核的な概念や方略」の具体について、共通性を重視しつつ、各教科等の特性も踏まえて検討を進めるべきではないか。  
 このことは、記載の冗長・複雑さの改善によるスリム化、教科等や学年等を横断した俯瞰しやすさの向上にも資するのではないか。

② 表形式や箇条書きを積極的に活用することが考えられるのではないか。  
 このことは、記載の冗長・複雑さの改善によるスリム化、教科等や学年等を横断した俯瞰しやすさの向上にも資するのではないか。

③ デジタル技術の活用により、例えば以下のようなことが実現できるのではないか。このほかにどのようなことが考えられるか。  
 (例)  
 ● 教科等間の関係、学年段階や学校種間の記載が容易に俯瞰できる。  
 ● 学習指導要領コードも活用し、学習指導要領とデジタル教科書・教材を紐づけることにより、デジタル教科書・教材とのアクセス等が一層円滑となる。  
 ● 学習指導要領等の記載に基づき応答する機能の可能性

### 【検討に当たっての留意点】

- 「3つの論点と方向性」を一体的に捉え、「学習指導要領の更なる構造化を学校現場に分かりやすく示す方策」も検討してはどうか。
- 諸外国や地域の事例も参考にしてはどうか。

# 石井英真委員報告資料

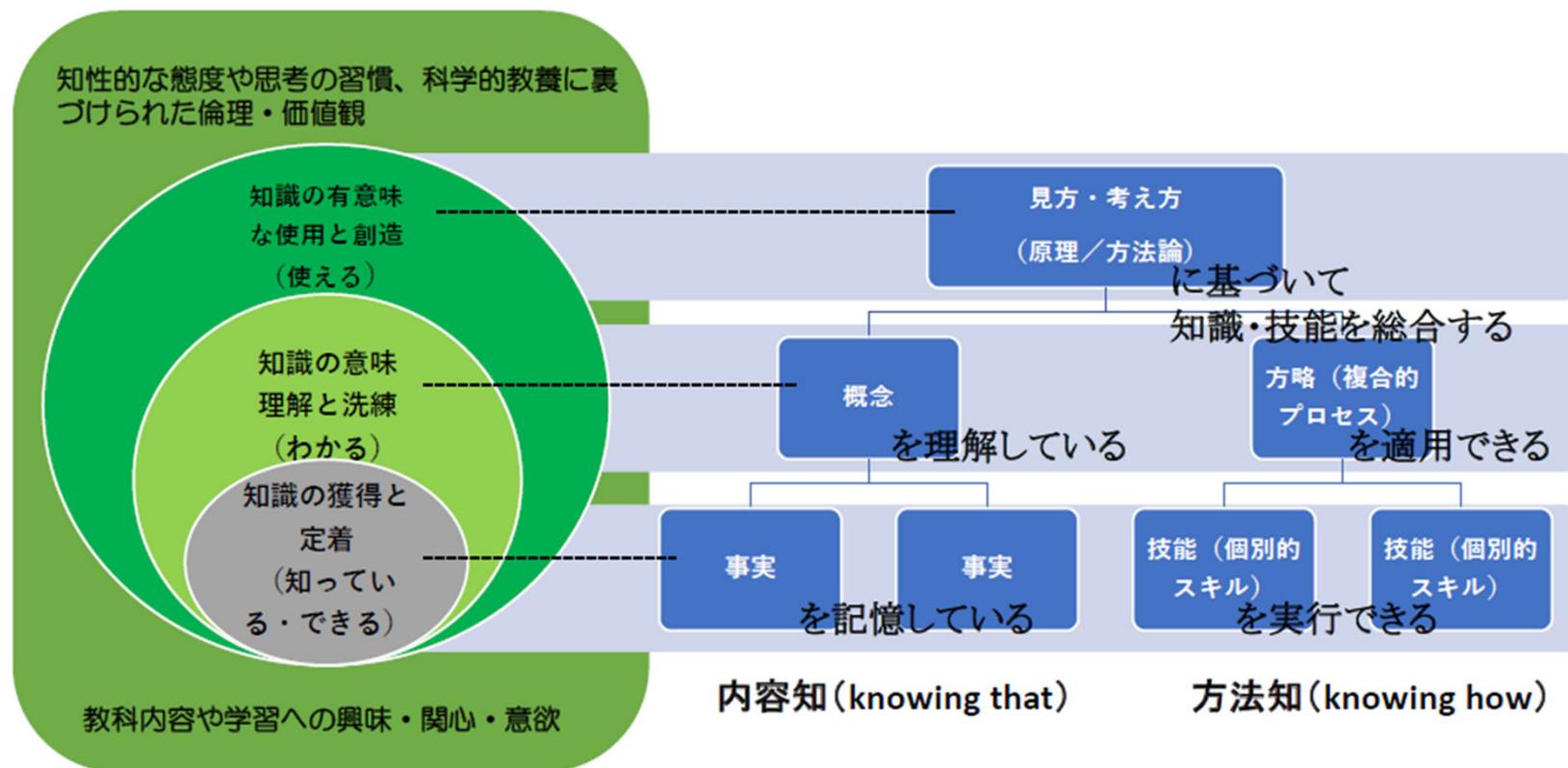


図1. 学力・学習の質的レベルと「知の構造」(出典:石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房、2020年。)

○単元デザインを行う中で、40分授業、45分授業、50分授業とどのような授業時間であっても、メリハリをつけることで授業を考えることができるようにすべきである。**中核的な概念**を掘り下げて質的に深く学ぶこと、つまり「less is more」の具現化の**必要性**を教師一人ひとりが自覚すべきである。(2)

○学習指導要領で、単元の全体像を確認し、目の前の子供の実態をとらえ、教材研究を行い、単元のデザイン（学習過程や学習環境）をする必要がある。その際、**中核的な概念**を意識し、**カリキュラム**を重点化することが大切である。(2)

戸ヶ崎委員「「教科書を教える」から「教科書で教える」へ

# 所感

- 指導要領改訂作業の第一の難所は、**教科書**の再構造化である
  - › 分量（ページ数）
  - › 学習指導要領コード、デジタル教科書の扱い
  - › 指導書、問いやQRコードの意義
- 改訂指導要領（案）は、**教師の概念的指導力**の発揮を前提とする
  - ›これまでの「〇〇の学び」を基礎として発展させる。教師はもっと我がごとの理解に至るまで学ぶ必要がある
  - ›教材研究、研修時間のカリキュラム内で確保すべき
  - ›この問題を、教育課程編成や授業時数取扱いの弾力化で対応すべきではない

# 発展的コメント1

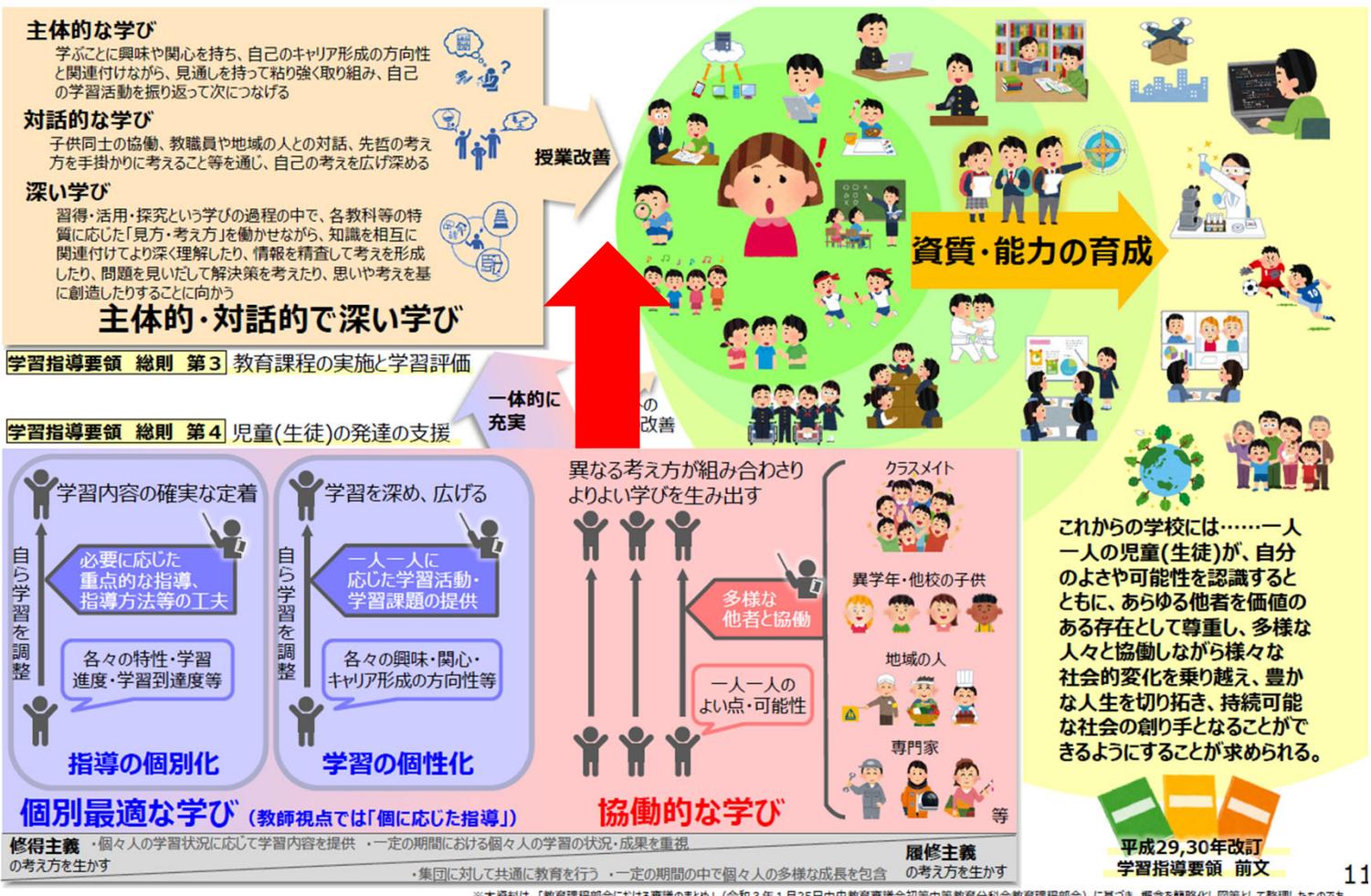
- ・ 小学校教育を中心とした議論だと思われるが、これを高校、大学へとつなげていけるのか？

- ・ 個性化・包摂、デジタル教科書の利用等が高まる中で、「個別最適な学び」のトーンがいっそう高まる。これを良しとするなら、手前で「**一斉授業**における主体的・対話的で深い学びを基盤として、「個別最適な学び」の補完的充実」としっかり銘打っておく必要がある

- ・ > 仕事・社会へのトランジション（社会に開かれた教育課程）で、最後表だって求められるのは、集団・協働における「主体性」「対話」「探究」である

- ・ > 知識・技能、思考力（論理的・批判的思考力、推論等）等を習得するその過程において、「主体性」「対話」「探究」の力、態度を育てなければならない。

# 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である

（『令和の日本型学校教育（答申）』より）

ペアワー



鳥取大学附属小学校

「一人一人が自分の好きなスタイルで学ぶ」を目指すなら全体学習をベースに自由進度学習における「協働的な学び」は「対話的な学び」を基礎として、補完するものと捉えるべき



鳥取大学附属小学校

# 個別最適な学びの充実



## 発展的コメント2

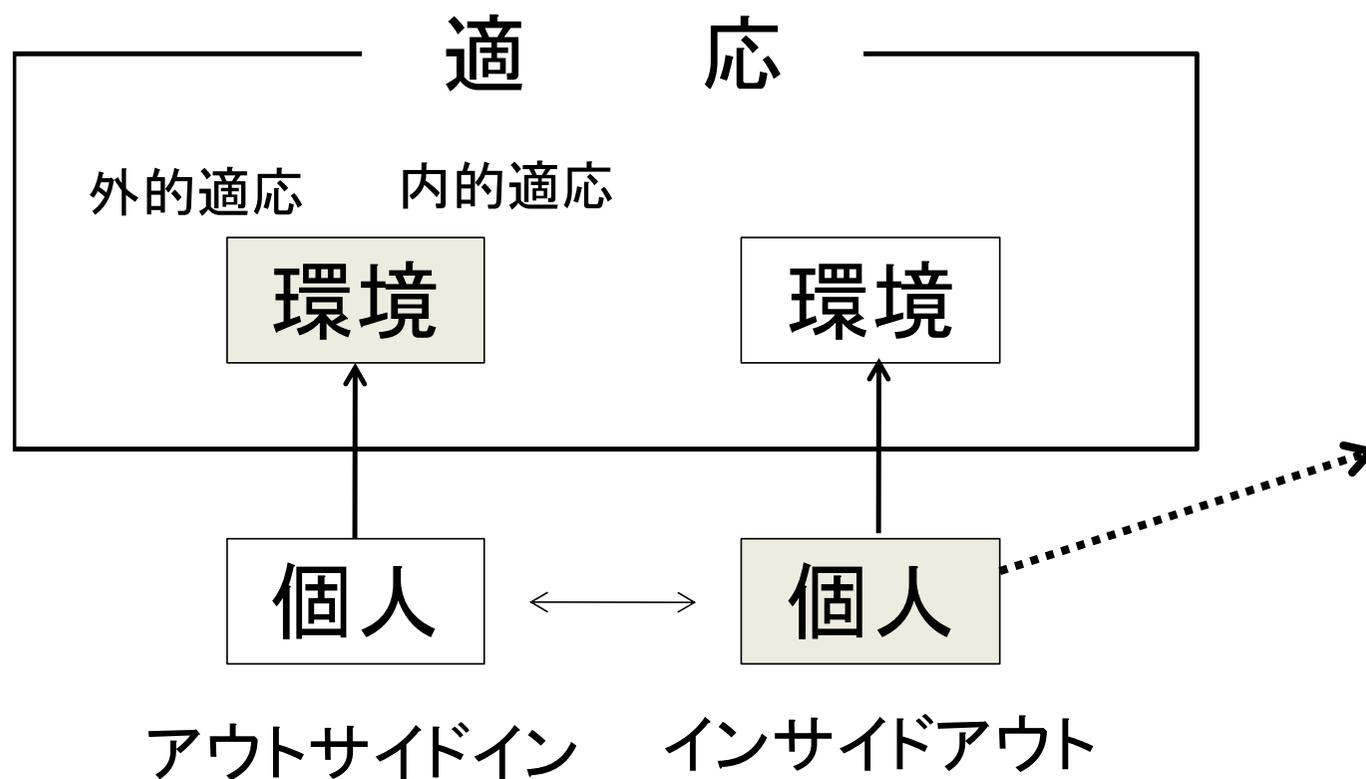
- ICTやデジタル教科書を利用して、また単元内自由進度学習のデザイン等を駆使して、子ども一人ひとりの「学習方法」や「進める順序」「時間のかけ方」等で、様々な個別最適な学びのステップを個性化しても、学べない子どもは少なからず残る。

＞そのような子どもへの「個に応じた指導・支援」がいかなるものかは、意外に唱えられていない（課題）

## 発展的コメント3

- 人は社会的な生き物である
- 人は、「社会化」を基盤とし、他者とのズレや差異を「個性」として発達する生き物である
  - › 学校教育の中で「社会化」は一斉授業である
  - › 今日の職場でも、最初にあるのは「社会化」であって、「個性」ではない。社会化が認められて、その上で輝く個性が認められる
- 自己決定、自律的意志は重要であるが、なんでもかんでも子どもに委ねればいいというものではない。社会もそのようにはなっていない。
- 近代化の「個人化」の流れは、不登校、引きこもり、多様な学校選択（フリースクール、広域通信制高校など）と密接な関連がある
  - › かなり覚悟しておいた方がいい

# 人の形成・発達における 適応（アウトサイドイン）と個性化（インサイドアウト）の力学



ご視聴有難うございました  
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。  
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

